

モバイル放送の危機 AT&T CruiseCastとFLO TVの失敗

アメリカでは地上波放送を使った「モバイルDTV」(ATSC M/H) サービスが始まろうとしている。しかし、AT&T CruiseCastとFLO TVの失敗により、モバイルDTVが立ち上がる以前から、その成功に対する否定的な意見も出ている。

大失敗の公算大という気配漂う FLO TV

Qualcommが8億ドル以上の経費をかけてスタートさせたFLO TVは瀕死の状態にある。AT&T、Verizonからの加入者は減少方向にあり、それを補うためにFLO TVは2009年12月にポータブルレシーバーのFLO TV Personal Televisionを売り始め、コンシューマ向けに直接FLO TVの販売を始めた。しかし、この計画も失敗に終わった。

FLO TVはFLO TV Personal Televisionの他、DVDプレーヤーとのコンボ、自動車向けチューナー等売り、FLO TVへの加入者を増やそうとしたが、そのマーケティング経費が増えるだけで、加入者は増えなかった。Qualcommは2010年10月に直接販売から撤退することを発表し、既存加入者向けのサービスも2011年春で終了の予定になっている。

AT&T、Verizon経由で提供されているFLO TVのサービスに関しては、発表はない。しかし、AT&T、VerizonもFLO TVの販売には力が入っていない。特にVerizonは、FLO TVに対応する機種は1つしか提供していない。両社ともにその多チャンネルサービスの一環として、モバイルブロードバンドを使ったサービスを検討しており、FLO TVに対する関心はあせている。

QualcommはFLO TVへの加入者数

を発表していないが、経理報告では2010年3月末までの6カ月間のFLO TVの売り上げは400万ドルしかなく、前年同期の1,300万ドルから大きな減少を見せている。売り上げの減少についてQualcommは、新規加入者を得るためのリポート等があったからだとしている。しかし、1,300万ドルの収入でも、月額10ドルで計算しても、加入者数は20万人にしかならない。

AT&TとRaySatのCruiseCast 自動車向け衛星放送も早々に撤退

モバイル放送における失敗はFLO TVだけではない。2009年6月にAT&TはRaySat社と共同で、衛星を使った自動車向けの放送サービスのCruiseCastをスタートさせた。CruiseCastは後部座席エンターテインメントシステム向けのサービスで、22チャンネルを月額28ドルで提供した。しかし、まったく売れずに、たった4カ月後の10月に閉鎖になった。不況時に、アンテナとレシーバーのセットが1,300ドルもする製品を

売ろうとしたことが問題だが、サービスが半年も持たなかったことでモバイル放送に対する疑問を生んだ。

地上波放送局は、モバイルDTVに積極的であり、すでに数十の局がサービスを開始している。サービスに対応した製品としては、自動車用レシーバー、ポータブルDVDとのコンボ、USBチューナー等が発表されているが、携帯事業者との契約はまだ1つも無い。放送局は、FLO TVの問題はローカルコンテンツがなかったことで、それを提供するモバイルDTVはFLO TVの失敗の影響は受けないと語っている。しかし、スマートフォンの普及が進む中、モバイル放送は不要だとの意見もある。

スマートフォンは携帯電話ユーザの25%以上に普及している。スマートフォンのユーザはモバイル放送を使うことなく、ニュース、天気等のローカル情報にオンデマンドでアクセスでき、さらにYouTube、Netflix、Hulu Plus等のアプリケーションで、ビデオを鑑賞することもできる。多様な情報やビデオがモバイルブロードバンドで提供されている中、モバイル放送は必要なのか。

* The Compass ニュース *

The Compassの特別レポートとして、モバイルビデオの市場予測が2010年10月に出版されました。レポートに関する案内は、NSIリサーチ社のウェブサイト (www.nsiirinc.com) にあります。The CompassはNSIリサーチが出版する、アメリカのデジタル放送とインターネットTVの動向を伝える情報サービスです。

